

2018年5月30日

2016年度 COOP トリプルカード みやぎスマイル基金 助成活動報告書

みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘 様  
株式会社日専連ライフサービス 社長 羽生正弘 様

団体名	ぼーだれすあーとクラブ BAC せんだい	
代表者名	河本 達子	
住所	〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘2-15-6	
電話番号	022-273-8610	FAX 022-273-8610
連絡担当者名	菅原 道子	

1. 助成事業報告

助成を受けた事業名	「ぼーだれすあーとくらぶ BAC せんだい」の創作活動と作品展
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のあるなしに関わらず、大人から子どもまで誰でも参加できる創作活動の場を作っていく。</li> <li>・ 活動の成果の発表としての展覧会開催、より多くの市民に参加、鑑賞してもらう場を作る。</li> <li>・ 創作活動を通して、障害を持つ人にも自己表現の喜びを感じてもらう。</li> </ul>
事業の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な、ワークショップの開催を計画、障害のあるなしに関係なく、楽しめる創作活動を計画。</li> <li>・ 自然物、木、ツル、織物、糸、絵の具、紙粘土等を材料に触角を十分に使った創作活動を展開。</li> <li>・ 講師は、造形作家だけでなく、障害を持つ作家にも関わってもらう。</li> <li>・ ワークショップで出来上がった作品の展示と、作品の前でのコンサートを企画。伝統のある建造物、旧天賞酒造の建物と日本庭園の魅力も知ってもらえる機会として地域の人にも喜ばれている。</li> <li>・ 作品を通して、障害者理解と思いがけないエネルギーあふれる作品の魅力に気づいてもらうきっかけを提供、随時開催のワークショップでは、心の解放を楽しんでもらう。</li> </ul>
活動の開始から完了までの流れ	<p>2017.3.25「まきまき人形作り」泉区障害者福祉センター 6.6「まきまき人形作り」中山多夢多夢舎 7.7「ダンボール小さな絵を繋げて壁画にする」せんだいメディテーク、東北障害者芸術公募展会会場</p>

	<p>9.17「ろうけつ染め」宮城県民の森  9.28「2018 アートカレンダー完成」  日本重度心身障害者学会会場にて販売  10.23「ミニ製本講座---和とじ製本」台風で延期  11.2「楽しいボードレスアート展」始まる  八幡杜の館  11.4「シュタイナー教育講座、感覚を育てる」  11.10「NHK てれまさむね取材 -  障害者と健常者、個性光る作品展」  11.17「河北新報の取材」  11.23「クリスタルボウル コンサート」  11.25「インド音楽 サーランギ、タブラ、タンブーラ」  12.1「ミニ製本講座 和綴じ」  奥山前市長が来館。鑑賞。  12.2~3「猫のまきまき人形、小人のまきまき人形」  12.9「小川ロン コンサート」  12.10「まきまき人形を作ろう」  以上全て、八幡杜の館が会場  2018.2.25「マチノワ」に参加  仙台市市民活動サポートセンター  3.4「お面を作る」宮城県障害者福祉センター  3.30「お面を作る」宮城県障害者福祉センター</p>
<p>活動の成果と教訓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、障害のあるなしに関わらずに誰もが参加できるワークショップを開催する事が出来た。</li> <li>・会の活動当初から参加していた親子の会員は、ワークショップの回数が増えて参加しやすくなり、表現の幅が広がってきた。</li> <li>・学校を卒業し、日々の就労活動とは別に創作の場を持つ事で、個人としての表現を意欲的に楽しむ姿が見られるようになってきている。</li> <li>・日常に疲れ、心の余裕のない人も訪れ、ワークショップに参加しながら会話することで、アートセラピー体験として心に安らぎや喜びを見いだす人の参加もあった。</li> <li>・障害者本人を講師に頼んだ事で、本人が大変に意欲をもってくれた。参加者にも好評なワークショップとなった。</li> <li>・今までに見た事のないような作品や音楽に出会う機会を作る事が出来て、心を活性化する活動という面が良く感じられた。</li> <li>・カレンダーの原画には、重度の障害を持つ詩人大越桂さんの書き下ろしの詩をつけてもらっているが、今回は桂さん自身、不自由な手で、自分も絵を描いてみるという刺激をもらうきっかけを得た。不自由な身体ではあるが、創造性には限界はないと感じさせられた。</li> </ul>

今後の展望など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような場を、さらに広げ、より多くの人に参加してもらえる場を作っていきたいと考える。</li> <li>・コンサートや詩の朗読会も充実させたい。</li> <li>・障害を持つ本人の表現性や、創作活動をより知ってもらうための発表の場を増やしたい。</li> <li>・障害者本人がより主体的に、自信を持てるように活動の内容を考えていきたい(講師をしたり、見に来た人との交流が出来る場など。)</li> <li>・県外の活動を見学に行ったり、交流が出来る機会を作っていきたい。</li> </ul>
---------	---

## 2. 助成金使途報告書

### ■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
みやぎスマイル基金助成金	200,000	
参加費	3,070	会費より
合計	203,070	

### ■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
運営費	会場費	30,000	24,500
	印刷代、コピー	20,000	8,537
	交通、駐車場	50,000	54,680
ワークショップ	講師謝礼	50,000	43,421
	材料費	50,000	71,932
合計		200,000	203,070

\*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

## 3. 送付必要書類

- (1) みやぎスマイル基金 助成活動報告書
- (2) 領収書のコピー
- (3) 成果物 (活動をまとめた冊子、パンフレットおよび写真など)